

京都賞 受賞者

鹿児島講演会



科学や文明の発展、また人類の精神的深化・高揚に大きく貢献された方々に贈られる国際賞「京都賞」。
その栄えある京都賞の受賞者を鹿児島にお招きし、講演会を開催しています。
世界の知性に触れられる機会に、本年度も多くの方が参加され感動と触発の機会となりました。



「京都賞」とは

「人のため、世のために役立つことをなすことが、人間として最高の行為である」という理念に基づき、(公財)稲盛財団の稲盛和夫理事長により、昭和59年に創設されました。毎年、先端技術、基礎科学、思想・芸術の3部門の各受賞者に、ディプロマ(賞状)、京都賞メダルおよび賞金(賞につき5000万円)が贈られ、世界を代表する知性を讃える国際賞として知られています。

関連行事は、京都府以外では、国内では鹿児島県のみで、海外では米国サンディエゴ市で開催されています。また、平成29年5月より、英国オックスフォード大学でも開催される予定です。



「神の木」として古来より信仰の対象となっている楠がデザインされた京都賞メダル

過去の主な受賞者

本年度のノーベル生理学・医学賞受賞の大隅良典博士や、同じくノーベル賞受賞者である山中伸弥博士、本県出身の赤崎勇博士らも過去に受賞されています。

世界の知性を 鹿児島に招聘

京都賞が30回目の節目を迎えた平成26年度以降、県、鹿児島市、鹿児島大学、鹿児島商工会議所で構成する「京都賞受賞者講演会実行委員会」が、毎年鹿児島での講演会を主催しています。

これは、将来の鹿児島を担う高校生や大学生をはじめ、広く県民の方々に参加していただき、文化的・学術的意識の高揚を図ることを目的としています。

離島地域などの高校生を招待

これまで、青少年育成の観点から、高校生・大学生に数多く参加いただいていたにもかかわらず、離島地域などの高校生については、地理的・経済的制約から、難しい状況にありました。

今回の講演会では、より多くの高校生に、世界の知性に直接触れる機会を提供するため、後援団体である(公財)稲盛財団のご協力により、離島地域などの高校11校から、約270名の高校生を講演会に招待しました。



京都賞受賞者



かなで たけお
金出 武雄 博士
先端技術部門

ロボット工学者。カーネギーメロン大学ワイタカー記念全学教授。コンピュータビジョンの基礎理論に根源的に貢献するだけでなく、自動運転を含むそのロボティクスへの革新的な応用技術を次々に創出し、長きにわたって、この分野の発展の基盤を築きながら牽引し続けておられます。



ほんじま たすく
本庶 佑 博士
基礎科学部門

医学者。京都大学名誉教授。遺伝子を解析することで、どのようにして抗体がさまざまな機能を獲得するのかという免疫学の最重要課題のひとつを解明されました。また、免疫反応の研究から、大変有効ながんの治療法に道を拓き、基礎科学と医療の両方へ多大な貢献をされています。



マーサ・クレイヴン・ヌスバウム 博士
思想・芸術部門

哲学者。シカゴ大学エルンスト・フロイド法学・倫理学特別功労教授。人が「何かになる・何かをする」可能性、すなわちケイパビリティ(潜勢能力)に焦点を当てた新しい正義論を提唱することによって、尊厳のある人生を送るための主導的な議論を展開し、教育論・法哲学・開発援助・フェミニズムといった幅広い分野にまで多大なる影響を与えておられます。

※写真提供 稲盛財団

京都賞受賞者歓迎レセプション

講演会前日には、京都賞受賞者を歓迎するレセプションを開催し、受賞者をはじめ、関係者の皆さまに、鹿児島が誇る食材や島唄などの伝統芸能を堪能していただきました。

このレセプションには、県内各界から200名を超える方々が参加され、受賞者との交流を深めています。



Students' Voices

離島から参加した高校生に聞きました



まきいり
菊入 さんご さん
(大島高校1年)

高度な内容の中にも共感できる新しい見方を感じ、想像以上に進んだ技術や医療の研究に驚かされました。人類の進歩やこれからの可能性に興奮させられる講演は、とても刺激になりました。

私もいつか海外の文化や考え方に自ら触れ、自身を高めるとともに、多様な価値観をもてるようになりたいです。



さめしま さえ
鮫嶋 彩映 さん
(種子島高校2年)

教科書に載っている研究や発見には、大変な苦労があり、長い年月を要していることを改めて知ることができました。

そして、本当に好きなことを見つけ、それを続けていくことは楽しいことだと実感しました。今後、進路選択で迷ったときは、講演を思い出し、自分の本心に希望する道を選びたいと思います。

講演プログラム

日時 平成28年11月16日(水)
12:30~16:05
会場 鹿児島市民文化ホール「第一ホール」
参加数 約1,800人

開会挨拶：稲盛 和夫 稲盛財団理事長

思想・芸術部門
マーサ・クレイヴン・ヌスバウム 博士
●演題「人間的であろうとする哲学」

先端技術部門
金出 武雄 博士
●演題「素人のように考え、玄人として実行する：楽しく役に立つビジョンとロボットの研究」

基礎科学部門
本庶 佑 博士
●演題「獲得免疫の驚くべき幸運」

総括：武隈 晃 鹿児島大学稲盛アカデミー長

【問い合わせ先】 県庁 企画課 099-286-2349